

2022年4月25日

Press Release

【開幕】弘前れんが倉庫美術館 2022年度 春夏プログラム

池田亮司展

会期：2022年4月16日（土）－8月28日（日）

会場：弘前れんが倉庫美術館（青森県弘前市）

煉瓦倉庫の大空間でのインスタレーションをはじめとした近作・新作を展望
ダイナミックな作品と美術館建築との共鳴を体感する、13年ぶりの国内大型個展



池田亮司《data-verse 3》2020年 撮影：浅野豪 ©Ryoji Ikeda

弘前れんが倉庫美術館（青森県弘前市）では、2022年4月16日（土）から8月28日（日）まで、フランス、パリと京都を拠点に国際的に活躍するアーティスト／作曲家である池田亮司の個展を開催します。池田亮司（1966年-）は、テクノロジーを駆使し、光や音を用いて鑑賞者の感覚を揺さぶる没入型の作品を数多く発表してきました。本展では、2009年以来となる国内美術館での大規模な展覧会として、新作を含む近年の池田の活動を展観します。

2000年以降、データを主題とする表現を模索し続ける池田は、とりわけDNA情報や素粒子、宇宙といった科学領域に関するデータに关心を持ち、自身の作品に取り入れてきました。そこでは、データを通して世界のあらたな認識の方法が提示されています。たとえば国内初展示となる《data-verse 3》（2020年）では、NASAをはじめ多くの科学機関の公開データを収集し、加工、変換など様々な操作を経て構成された作品が、高解像度の映像として展示室内に投影されます。視覚と聴覚で体感する作品は、普段は目に見えないがゆえに意識されない膨大なデータの世界へと、人々を引き込む鑑賞体験を生み出します。

今回の展示では、高さ15mの吹き抜けの大空間にプロジェクションを行うほか、各展示室の映像や音響が時に結びつきながら、煉瓦倉庫を改修した当館ならではの建築空間と作品とが共鳴／共振します。本展は、約100年前に酒造工場として建造され美術館へと生まれ変わった当館の空間の持つ可能性を拡張し、この場所に創造性を喚起する作品の数々を体感いただく機会となります。

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川（公）

TEL：0172-32-8950 FAX：0172-55-5982 E-mail: press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町2-1

展覧会のみどころ

1. 高さ 15m の大空間への大型プロジェクション

2019年開催の第58回ヴェネチア・ビエンナーレにおいて初めて公開された映像、音響による3部作「data-verse」。CERN（欧州原子核研究機構）やNASAなどの膨大なオープンデータを取り入れて制作された本シリーズでは、原子核の内部から宇宙まで、ミクロとマクロの視点を行き来する壮大な旅に引き込まれます。本展では、2021年にアート・バーゼルで公開された《data-verse 3》を日本で初めて展示。近年の池田作品の集大成とも言える本作を、当館の建築の中でも最も特徴的な吹き抜けの大空間にプロジェクションします。

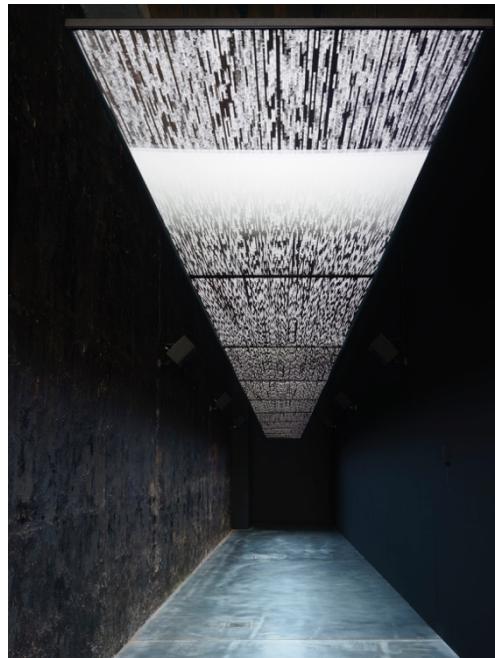
2. 美術館の建築空間と共鳴する作品を視覚・聴覚で体験

電子音楽の作曲を活動の起点とする池田は、場所の性質に応答し、ひとつの音楽を作り上げるかのように、自らの作品空間を構成します。

本展では鉄骨構造やコールタールの黒い壁など、明治・大正期に建設され倉庫として使用された時代の趣が残された当館の建築の特性を最大限に生かすように作品が展開。空間と対峙する形での各作品の配置にとどまらず、全ての映像・音響が重なり合うことで、総体として建築空間と作品との共鳴をもたらします。実際に美術館を訪れるこでしか味わうことができない「サイト・スペシフィック」な作品体験をお楽しみください。

3. 日本初公開の作品を含む多様な新作・近作

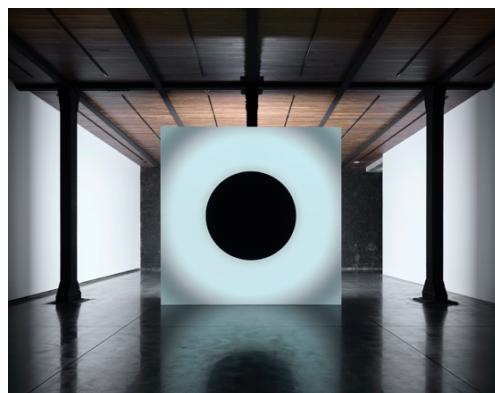
2009年以来、13年ぶりの日本での個展となる本展では、レーザーによる作品「exp」や、床面へのプロジェクション作品など、様々な手法を用いた新作・近作を紹介。鑑賞者の感覚の拡張を試みる多様な作品群をとおして、国際的に活躍する池田の近年の活動を展望することができる貴重な機会となります。また、作家や作品の魅力により近づくために、池田によるこれまでの音楽作品の試聴や活動記録の閲覧ができるアーカイブ＆リスニングスペースも設置します。



池田亮司 《data.flux [n°1]》 2020年

撮影：浅野豪

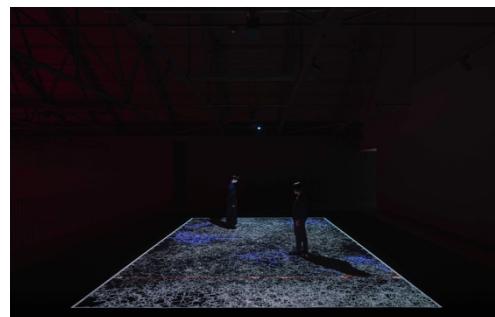
©Ryoji Ikeda



池田亮司 《point of no return》 2018年

撮影：浅野豪

©Ryoji Ikeda



池田亮司 《data.tecture [n°1]》 2018年

撮影：浅野豪

©Ryoji Ikeda

出品作品

[1階]

- 1 《point of no return》 (2018年)
- 2 《data.flux [n°1]》 (2020年)
- 3 《data-verse 3》 (2020年)
- 4 《exp #1》 《exp #2》
《exp #3》 《exp #4》 (2020-2022年)
- 5 《grid system [n°2-a]》 《grid system [n°2-b]》
《grid system [n°2-c]》 《grid system [n°2-d]》
(2022年)



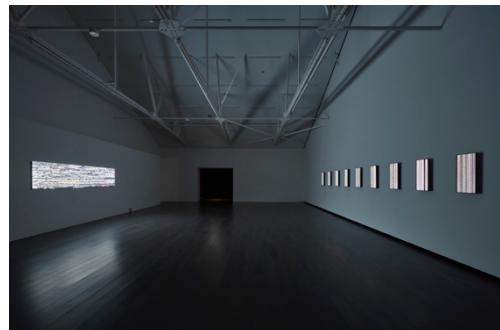
池田亮司 《exp #1-4》 2020-2022年

撮影：浅野豪

©Ryoji Ikeda

[2階]

- 6 《data.tecture [n°1]》 (2018年)
- 7 《data.scape [DNA]》 (2019年)
- 8 《data.scan [n°1b]》 《data.scan [n°2b]》
《data.scan [n°3b]》 《data.scan [n°4b]》
《data.scan [n°5b]》 《data.scan [n°6b]》
《data.scan [n°7b]》 《data.scan [n°8b]》
《data.scan [n°9b]》 (2011年／2022年)



池田亮司

左：《data.scape [DNA]》 2019年

右：《data.scan [n°1b-9b]》 2011年／2022年

撮影：浅野豪

©Ryoji Ikeda

作家プロフィール

池田亮司 Ryoji Ikeda

1966年岐阜県生まれ、フランス／パリおよび京都府在住。

国際的に活躍するアーティスト／作曲家として、電子音楽の作曲を起点としながら体験としてのアートを提示する。音やイメージ、物質、物理現象、数学的概念などの様々な要素の精緻な構成を用いて、見る者／聞く者の存在を包みこむライブ・パフォーマンス、インスタレーションを発表している。

東京都現代美術館（2009年）、パーク・アベニュー・アーモリー（ニューヨーク、2011年）、ポンピドゥー・センター（パリ、2018年）、Eye Flimmuseum（アムステルダム、2018年）、台北市立美術館（2019年）、180 The Strand（ロンドン、2021年）など世界各地で個展を開催するほか、あいちトリエンナーレ2010（名古屋、2010年）や第58回ヴェネチア・ビエンナーレ（2019年）など数多くの美術館や国際展に参加。

2018年には自身のレーベル「codex | edition」を立ち上げ、『music for percussion』（2018年）、『music for installations vol.1』『superposition』（共に2021年）をリリース。アルスエレクトロニカがCERN（欧州原子核研究機構）と共同創設した Collide@CERN Award 受賞（2014年）、第70回芸術選奨文部科学大臣賞（メディア芸術部門）受賞（2020年）。

関連プログラム

オープニングトーク ※終了しました

出演 | 池田亮司（アーティスト／作曲家）、田根剛（建築家）

モデレーター：南條史生（弘前れんが倉庫美術館 特別館長補佐）

日時 | 2022年4月16日（土）13:30－15:00

会場 | 弘前れんが倉庫美術館 ライブラリー

料金 | 参加無料

定員 | 50名

イントロトーク

本展会期中、学芸スタッフによる展覧会についての短い「イントロトーク」を開催します。作品をご覧いただく前に、展覧会をより楽しむためのポイントをお伝えします。

日程 | 2022年5月1日（日）、5月15日（日）、5月29日（日）、6月12日（日）、6月26日（日）、
7月10日（日）、7月24日（日）、8月7日（日）、8月21日（日）

時間 | 11:00－11:15

料金 | 参加無料（要当日観覧券）

定員 | 10名

申込み | 不要（当日先着順）

集合場所 | 1階受付前

展覧会ブックレット

作品解説や展示風景写真を収録した展覧会ガイドブック（日英バイリンガル）を2022年8月に発売予定です。吉竹美香氏による論考のほか、バーバラ・ロンドン氏による作家へのインタビューを掲載します。当館隣接のショップで予約いただけます。オンラインストアは準備が出来次第、当館ウェブサイトでお知らせします。

発売日 | 2022年8月（予定）

仕様 | 64ページ、フルカラー

価格 | 800円（税込）

【執筆者／インタビュアー】

吉竹美香

インディペンデント・キュレーター。ハーシュホーン美術館・彫刻庭園（ワシントンD.C.）元キュレーター（2011－2018年）。

バーバラ・ロンドン

キュレーター、ライター。ニューヨーク近代美術館（MoMA）元キュレーター（1973－2013年）。

『Video/Art: The First Fifty Years』（Phaidon Press、2020年＊未邦訳）著者。

開催概要

- | プログラム名： 2022 年度 春夏プログラム「池田亮司展」
- | 会期： 2022 年 4 月 16 日（土） – 8 月 28 日（日）
- | 開館時間： 9:00 – 17:00 （入館は閉館の 30 分前まで）
- | 休館日： 火曜日
※ただし 4 月 26 日（火）、5 月 3 日（火）および 8 月 2 日（火）は開館
- | 観覧料： 一般 1300 円（1200 円） 大学生・専門学校生 1000 円（900 円）
※（）内は 20 名様以上の団体料金
※以下の方は無料
高校生以下の方/弘前市内の留学生の方/満 65 歳以上の弘前市民の方
ひろさき多子家族応援パスポートをご持参の方/障がいのある方と付添の方 1 名
- | 主催： 弘前れんが倉庫美術館
- | 会場： 弘前れんが倉庫美術館 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1
- | 特別協賛： スターツコーポレーション株式会社
- | 協賛： 株式会社大林組、株式会社 NTT ファシリティーズ
- | 協力： 180 Studios、 TARO NASU
- | 後援： 東奥日報社、デーリー東北新聞社、陸奥新報社、青森放送、青森テレビ、
青森朝日放送、青森テレビ、青森朝日放送、エフエム青森、FM アップル
ウェーブ、弘前市教育委員会
- | 一般問合せ： TEL: 0172-32-8950
- | アクセス： JR 弘前駅より
- 弘南バス・土手町循環 100 円バス「蓬莱橋」下車 徒歩 約 5 分
- 徒歩 約 20 分
- タクシー 約 7 分
- | ウェブサイト： <http://www.hirosaki-moca.jp>
- | SNS : Instagram : @hirosaki_moca
Twitter : @hirosaki_moca
Facebook : @hirosaki.moca

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当: 大澤、石川（公）

TEL : 0172-32-8950 FAX : 0172-55-5982 E-mail: press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1

E-MAIL: press@hirosaki-moca.jp または FAX: 0172-55-5982 穹

2022年4月25日

弘前れんが倉庫美術館（青森県弘前市）

池田亮司展

会期：2022年4月16日（土）－8月28日（日）

広報画像申請書

▼貴媒体についてお知らせください。

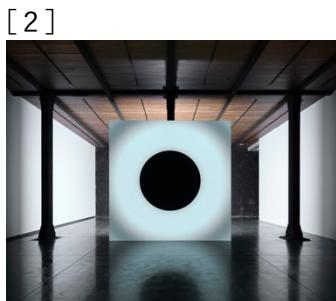
媒体名	貴社名		
ご担当者	所属部署		
ご住所			
電話番号	FAX 番号	E-MAIL	
掲載・放映の予定が決まっていたらお知らせください。		年	月
読者プレゼントのご希望 <input type="checkbox"/> 希望する 組 名様 (2022年7月30日迄 掲載対象) <input type="checkbox"/> 希望しない			
*画像1点以上ご掲載の場合、本展の招待券10枚まで提供します。/美術館までの交通費は自己負担のご案内をお願いします。			

▼希望される画像の番号に「○」で印をつけてください

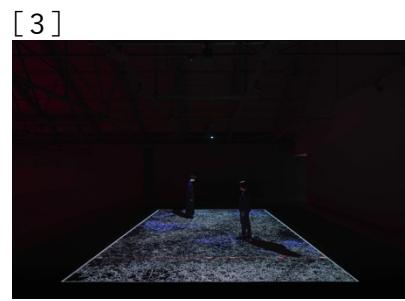
広報画像にはすべて以下キャプション・クレジットを併記してください



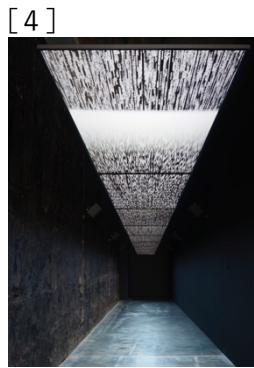
池田亮司《data-verse 3》2020年
撮影：浅野豪
©Ryoji Ikeda



池田亮司《point of no return》2018年
撮影：浅野豪
©Ryoji Ikeda



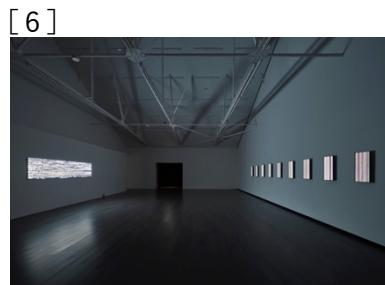
池田亮司《data.tecture [n°1]》2018年
撮影：浅野豪
©Ryoji Ikeda



池田亮司《data.flux [n°1]》2020年
撮影：浅野豪
©Ryoji Ikeda



池田亮司《exp #1-4》2020-2022年
撮影：浅野豪
©Ryoji Ikeda



池田亮司
左：《data.scape [DNA]》2019年
右：《data.scan [n°1b-9b]》2011年／2022年
撮影：浅野豪
©Ryoji Ikeda

<広報画像・取扱に関する規定>

- 広報画像の使用は美術館をご紹介いただく場合のみとさせていただきます。
- 広報画像をご紹介いただく場合、指定のキャプションとクレジットを必ずご記載ください。
- 全図で使用してください。トリミング、変形、部分使用、文字のせは原則禁止となっております。
- 掲載記事・番組内容については、基本情報確認のため、可能な範囲でゲラ刷り・原稿の段階で広報までメールまたはFAXでお送りください。

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川（公）
TEL : 0172-32-8950 FAX : 0172-55-5982 E-mail : press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町2-1